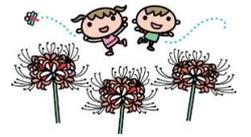




令和2年9月28日

園長 大西 三千代



～ 発想の転換 ～



7月、園に来客があった時の会話です。その日は雨のため、下駄箱に子ども達の長靴がたくさん並んでいました。その様子を見て「最近では長靴を履いている子ども達の姿が少なくなっているけど、まだ帯解こども園では長靴で登園する子が多いですね」と言われました。私が「雨の日は長靴で登園する子も多いですよ。長靴を履いていると、水たまりに入ってしまったも足が濡れる心配がないので、叱られることもなく雨の日も楽しいと思いますよ」と答えたら「今先生の話聞いて、星野富弘さんの『鈴の鳴る道』という話を思い出しました。星野さんが車いすに乗られるようになって、初めて気が付いたのは、舗装道路でもいたる所に段差があって、車いすにとっては動きにくいということでした。そんなある日、ある方から小さな鈴をもらったので、星野さんは車いすにその鈴をぶら下げられたそうです。するとでこぼこの道にさしかかった時、その鈴がチリン♪と心にしみるような澄んだ音色で鳴ったそうです。その日から、星野さんは今まででこぼこを避けてきたけれど、反対に鈴が鳴るその道を通るのが楽しみになったそうです。嫌だな、大変だなと思っていることも、雨の日の長靴も同じで、少し見方や発想を変えると、反対にそれが楽しくなるということもあるんですね」と話されました。

今、新型コロナ禍で、プール遊びや運動会などの行事が、例年のようにはできない状況になっています。日々の会話の中にも、いつもの年と同じように子ども達に経験をさせてあげたいという園の先生たちの願いが痛いほど伝わってきます。きっと保護者の皆様の思いも同じだと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症が収束しない状況の中では、子ども達や保護者の皆様・職員の健康や安全を第一に守っていかねばなりません。こんな時だからこそ、今まで以上に頭を柔らかくして発想の転換で乗り越えていかなければ「鈴の鳴る道」の話を聞いて改めて思いました。

子ども達が大人になった時、保育者や友達のマスクの中の笑顔と共に、「あんな時もあったね」とこども園の楽しかった思い出を思い出してくれたらいいなと思います。2学期から参観などの行事も感染予防を念頭において始めていきます。保護者の皆様もご理解とご協力をお願いします。

園で子ども達は遊んでばかりですが・・・



自由選択活動
自分でしたい遊び
を選んでする活動



水をいっぱい運んだら、砂場に水がいったまるんじゃない？

どうしたら固いクリーム
が作れるのかなあ？



いろいろな色のジュース
を作ってるよ。

共通経験活動

みんなで同じ経験を
する活動



初めての絵の具。どんな色
で描こうかな？



水の中を歩くと冷たくて
気持ちがいいね！



上から頭の水が落ちてくるよ
うにしたいなあ。どうしたら
いいかな？



玉をうまく転がして缶に入
れたいけど… (試行錯誤の
真っ最中)



ワカメだよ。
触ってみる？



リトミック



なぜ、外遊びが大事なの？

『乳幼児期には、からだを動かすことはとても大切です。外遊びを通して、たくさん動かすことが重要なのです。自由な外遊びを十分している園の方がより運動ポイントが高いというデータがあります。それは、子どもが楽しさの中で、知らず知らずのうちに多様にからだを動かしているからでしょう。文部科学省の幼児期運動指針では、大切な基本的な動きとして次の3つをあげています。

- ①体のバランスを取る動き（立つ 座る 寝転ぶ 起きる 回る 転がる 渡る ぶら下がる など）
- ②体を移動する動き（歩く 走る はねる 跳ぶ 登る 下りる 這う よける 滑る など）
- ③用具などを操作する動き（持つ 運ぶ 投げる 捕る 転がす 蹴る 積む こぐ 掘る 押す 引く など）

実にたくさんの動きがありますが、楽しく体を動かして遊んでいれば、自然と多くの動きを経験することができてしまいます。そして、**非認知能力**の一つでもある「意欲」まで育てるのです。遊びって本当にすごいですよね！』

帯解こども園の子ども達も、もちろん外遊びは大好きです。幼児はほとんどのお友達が揃った時点で、1・2歳児は、朝のおやつが終わった時点で外遊びが始まります。園庭に出ていく子ども達の顔はどの子にもここにこ笑顔で本当にうれしそうです。山に登ったり、滑り降りたり、砂場をスコップで掘ったり、水を運んだり、トンネルをくぐったり、鉄棒にぶら下がったり、巧技台やビールケースを渡ったり跳んだり… 0歳児の子ども達も体を思いっきり動かせるように保育室に広いスペースを確保し、スロープや階段、ボールプールなどの環境を整えています。雨の日もリズム室や廊下を利用して体を動かせるような遊びの工夫をしています。子ども達の遊びは様々な体の動きの組み合わせです。こうした毎日の遊びの積み重ねで体や心が育まれていくのですね。



※『非認知能力（あと伸びする力）』って

最近、しばしば話題になる「非認知能力」という言葉を耳にして「それって何のこと？」と思われている方もいらっしゃるかもしれません。「非認知能力」とは、簡単に言えば、読み・書き・計算などの「認知的能力」でない力、あるいは数値化できない能力のことです。何かに熱中・集中して取り組む姿勢、自分の気持ちをコントロールできること、他者とうまくコミュニケーションできること、自分を大事に思えること、といった力のことです。乳幼児期にこうした非認知能力を育むことが、成長後の心の健全さや幸福感を高め、社会的・経済的効果を高めると考えられるのです。その成果は、その時すぐにではなく後になって出てくることから「あと伸びする力」とも言われます。現在、その重要性について研究を進めるなど、世界的な注目が集まっています。日本でも、どの園においても非認知能力（学びに向かう力、人間性など）を育てることを重視しています。非認知能力とは、主体的・対話的に学んでいく力や、やり抜く力といった、小学校以降の学びの場だけではなく、生きていく上で重要な力となるよい資質を含んでいるのです。AI時代に突入り、21世紀のこれからの社会は大きく変化するといわれています。求められる仕事内容も大きく変わり、これまでの暗記型の知識はあまり生きてこなくなるでしょう。そうした中で、ますます非認知能力が注目されるのは、当然のことなのです。

～「非認知能力を育てるあそびのレシピ 大豆生田 啓友」より